

現世人間の起源と未来

人間たちがあまりにも利己的のみ考え動いているので、全体的に客観的に見る視野が遮断されてしまったのである。このように人と人との間を遮断している利己的な考えが人間の中に入っているため、“我”というものに僅かでも不利な場合は兄弟であっても切り捨て、自分の利益のみを追求する悪い動物に成り下がったのが人間なのである。

その悪は、どこから生まれるのか？
その悪は利己的な心であり、利己的な心は“我”という存在意識から出たのだから、人間をこのような不幸の洞穴に落とした元凶は“我”という存在意識であるのだ。
だから、己れという“自我意識”が即、悪魔であり、“自我”が自身を死に至らしめる根本的要因であり、“我”が良心を欺し、良心を取り巻いている監獄のごとき存在であることを悟らなければならない。

5. 人類の“自我”という意識

現在、人類の“自我”という意識は分裂の霊であり、悪行の本である。
本来、人間は複雑なことを好まない。A派、B派に分かれ派閥争いで分裂することに誰もが煩わしさを感ずる。それは元来、人間は一元体制の心を持っていたからである。
だが、その神の心が“分裂霊”に占領されたことにより、「君」と「僕」を分ける分裂意識が生まれたのである。分裂霊が人間を占領したので人類は二つの身体に裂かれることになった。“男性”があり“女性”があるようになったのである。
今日、人間の考えが分裂意識にとらわれるため、自分と他人を区別し、自分だけは他人と違う特別な存在だと思っている。そして“我自身”を、誰よりも大切に愛している。

つまり、これが我の存在が引き起こす特権意識である。この特権意識から“自尊心”が生まれる。“我”の牙城が高ければ高だけ自尊心も強く慾も大きくなる。慾心自体が罪であるから、慾心のある“我”という特権意識が即、悪魔であるのだ。

“我”というものが罪を起す犯人である。
自我を意識するということは、我と彼を区別する特別な存在として考えているからである。
この特別意識から生ずる心の中で最も代表的なものが自尊心である。この自尊心を傷つけると、誰でも善でなく悪が出てくるのは、それが悪に根源をおいた心であることがわかってくる。「その果物の実を見てその木を知る」という聖書のことばどおりである。

自尊心を認めず無関心であるだけでも、その心は不愉快になるのだ。だから、自尊心はそれ自体が極めて積極的な悪性をもっているのだ。のみならず、個人的な自尊心は個人に苦痛を起こすが、集団的な自尊心は集団的な争いを起こす。暴力とテロと戦争が起きる。人類の歴史上、大小の戦争は集団と集団の間の自尊心と自尊心の戦争だといっても過言ではない。

慾心もまた同じだ。慾心は即、不足心である。不足であるから、その不足を埋めるために起きる心が即ち慾心である。だが、不足心は慾心を出すからといって満たされるものではない。慾心は継続して慾心を生むからである。

6.“我”を常に捨てよ

人は誰でも元来、神であったのに悪魔に捕らわれているので罪の人、即ち罪人だ。だが、罪自体が罪を犯すのではなく、“我”とい

う意識が罪を犯し、慾心自体が慾心を起こすのではなく、“我”が慾心を起こすのである。だから、悪魔に捕らわれた神が本来の神に帰るためには“我”を常に捨てて、神の心に改めて生まれなければならない。

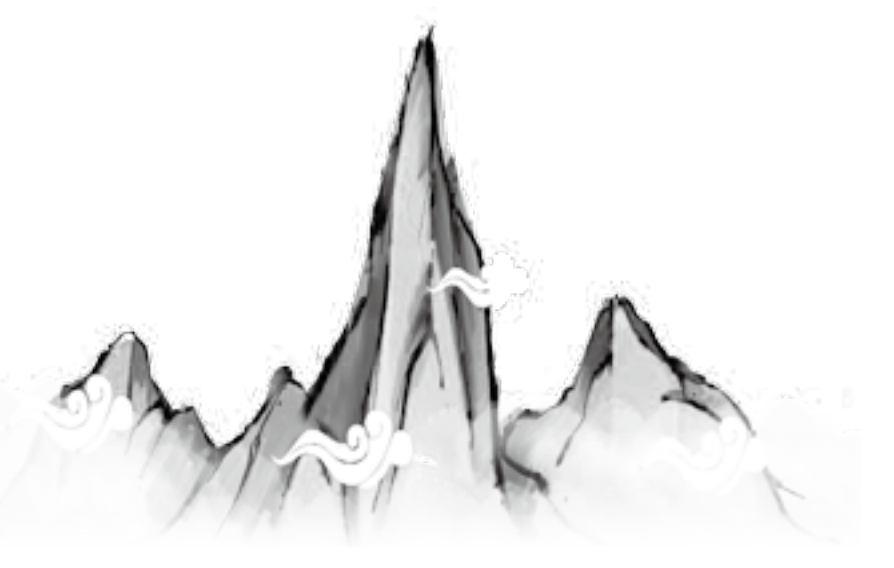
世の総ての経典は“我”を捨て、神に生まれ変われと言っている。
悪魔の獄にあった神が本来の神に帰るためには、神の霊である良心の霊が“我”という監獄を打ち破って出なければならない。それが即ち脱出する道であり、失われたエデンの園を回復する道で、地上楽園をこの地に実現する道である。

あらゆる宗教の窮極的目的は人間の救いであり、人間の本郷を取り戻すことをその目標にしている。そして、あらゆる経典も“我”を捨て、天の神に戻ることを説いているのだ。

人間の本郷に帰るためには“我”という考えを除去しなければならない。古今東西の先覚者聖賢たちはみな、“我”を捨てろと叫んだ。聖書にも“我を捨てろ”“我を愛するは万悪の悪だ”と言っており、儒教でも“克己復礼”といって、我を克服し礼(人間の本郷)に帰すべしと、また仏教でも”無我の境地”になれば道に通ず(悟り)とし、“仏道の真髄は無我の道理を教えること”だと説いた。また、道教や仙道でも“物我雙忘観”といって、我と対相をすべて忘却せよ、といっているから、東西古今のあらゆる宗教と学問がみな、“我”を捨てることを先ず前提にしているのである。そして、聖書の核心は“我を捨て神に向かい、失われたエデンの園を回復すること”であり、これが聖書の主な目的である。

同じく、仏教の目的も我を意識することのできな無私の状態で、嘘の我を捨て本来の我(真我)の仏となる成仏であり、これが、かの八万大蔵経全体を要約した一言である。

갑을(甲乙)의 운을 당하면 십승 하나님을 모신 정도령이 천지공사를 하고 있다는 것을 알리라



소 우牛자가 들어있다)처럼 천천히 그리고 꾸준히 도모하는 자들은 비남자(非男子=女子=好) 즉 호조건을 만드는 것이니라. 피차지간(彼此之間) 천지개벽의 천지공사에 같이 참여하는 것이고 천천히 또는 신속하게 도모하는 것은 각자의 의사에 달려 있느니라. 그러나 천천히 일을 꾀하는 자는 백 명의 할아버지에 손자 열 명을 살리게 되고(백조십손百祖十孫) 급하고 빠르게 일을 꾀하는 자는 백 명의 할아버지 가운데 손자 한 명밖에 살리지 못하게 되느니라.(백조일손百祖一孫) 천천히 꾸준히 일을 하게 되면 계룡각(鷲龍閣)을 세울 것이요, 급하고 빠르게 일을 꾀하면 순산옥(舜山屋)을 짓게 되리라.

一字縱橫鷄龍殿 일자종횡계룡전
鷄龍山上伽椰閣 계룡산상가야각
甲乙當運矢口知 갑을당운사구지

다가,既存의宗教는具體的に我를捨てる方法を提示してくれもしなかったし、實際に、我を捨てて神になる変化を見せてくれなかった。我という存在は即ち分裂の霊であり、死亡の霊であるので、我を完全に脱ぎ捨てれば、即ち、死亡の霊完全に脱ぎ捨てることになるのである。死亡の霊を脱ぎ捨てるということは、即ち、永生をいうのである。だが、この次元に到達した者はいなかったのだ。死の境地を超えに越えて、死亡の数千倍にもなる苦痛を堪え忍び、鉄壁の如き魔鬼の獄を抜け出て、永生の世界を開けて入った者は、人類史上一人もいなかったのである。

釈迦は「三千年後、弥勒仏が出現するが、弥勒仏は生仏だ」と言った。生仏とは永生する仏のことである。

“我”という意識が消えるとは人の神の血に変化するのだ。血が変わると細胞が変わり、完全に汚れのない人間、永生する神が誕生するのである。これが宗教の窮極的な完成である。

この世の宗教は未だ罪が何かを判然と知られないのだ。慾心を出し、悪事を行うことを罪だと思っているのだ。悪事を行うことだけが罪になるのではない。“我”という意識から出たことはみな罪なのである。

従って、“我”が神を信じても罪、“我”が神に祈っても罪、“我”が孤兒院に米百俵を寄贈しても罪になるのである。この氣が詰まるような心と闘った末、遂に“我”に勝つことができるのである。

7.勝利した聖なる神

次は、“自我”に打ち勝った勝利者、曹熙星先生の講義から勝利した聖なる神と勝利の正しい道を探って見よう。

”私は生涯をかけて“我”自身と闘わざる

を得なかった。“我”という意識が即、罪の本体になるので“我”を瞬時でも意識することに鞭打って自らを苛酷に攻め立てたのだ。そして、私自身を犬の糞だと思った。これは神が汚物をふくときの雑巾のごときものだと思った。

そして、次のように祈った。「この身を地獄に投げ入れてもいいから、私のこの身をしてあなたの意だけを満たし給え」「私を救い給え」などという祈りは考えてもみなかった。救ってくれようが、地獄に投げ入れようが、全てを神に任すだけだった。

“我”が即ち魔鬼であるし、“我”が罪自体であることを知っていたので、私は“我”が祈ることができなかった。“我”が御飯を食べることもできなかった。息することもできなかった。“我”が息をしても罪になるので息することができなかった。

だから、ひたすら神に全てをゆだねるしか他に道はなかったのである。

神さまが来られて神さまが祈って下さい。私はどうしても祈ることができない故、神さまが来られて祈って下さい。

神さまが来られて、神さまが歩けるようにして下さい。

神さまが来られて祈ってくださるといううちに、もし、私が祈った部分があったとしても、神さまが祈ってくださったことにして下さい。

誰かが聞いたら笑うだろうし、聞いたこともないことを祈りながら、私はひたすら神さまに哀願し食い下がった。

一九八〇年十月十五日、遂に昔の曹熙星は死んでしまい、全く新しい一人の人間が誕生したのである。私の姓名もなくなってしまった。私が三十年間住んでいた家も失くしてしまった。完全に白紙の状態になっ

ていた。私の年齢が一歳か二歳か、結婚したのかしなかったのか、家があるのかないのか、全く記憶になかった。いかに神のことに没頭したことか、いつも呼ばれていた名前すら忘れてしまうとは？まさに、想像に絶する苦しい鍛錬を経てきたのである。

そうして、完全に新しい身体と心に生まれ変わったのだ。今までの罪人曹熙星が被っていた身体は完全に脱ぎ捨て、新しい身体に生まれ変わったのだ。肉も骨も爪も全部が脱げて入れかわった。

神さまが、“曹熙星”の“我”を殺したので肉体が代わり、死なない身体に変化したのだ。そして、いまや六千年間、この身で王の權威をふるっていた死の神、魔鬼を打ち倒して「勝利のかみさま」が、誕生したのである。

“勝ったのだ”ということは、罪の人間である“曹熙星”自身が自身に勝ったのではない。“我”は“我”に勝つことができない。神さまあなたが曹熙星という人生の“我”を殺して勝ったから、曹熙星が「勝利者」でなく、神さまが「勝利者」であるのである。

そういうことで、私には“我”という意識が消えてしまい、代わりに神さまが定坐されたのだ。“我”が消えたということは何か？、我がなくなれば慾心がなくなり、血氣と感情がなくなる。陰と陽の二元論的な世界が消えて、プラス(+）マイナス(-)という極性がなくなって、中性者の如き無性の存在に変化するのである。

こうなってはじめて、神さまの世界が開かれるのである。神の喜びと、神の喜悦を感じながら、一秒一秒、限界のない宇宙全体を見極めることができるのである。そして、神の神秘的な世界と、その世界の律法を皆さんに明かしているのである。

死とは、どういうことで、生命とは、どういうものであり、神さまの世界は、どういうものであるかを……」（1986年7月20日 勝利者の講話から抜材）
次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

격암유록 新 해설

제117회

甲乙歌 갑을가

當運出世謀謀人 當운출세모모인
運數時來善事業 운수시래선사업
甲乙已過前事業 갑을이과전사업
不然以後狼狽時 불연이후낭패시
一字縱橫十勝運 일자종횡십승운
鷄龍出世伽椰知 계룡출세가야지
一字縱橫六一出 일자종횡일출
自身滿滿不成事 자신만만불성사
衆人實金一脫世 중인보금일탈세
非善事業可憐好 비선사업가련호
暗暗成事大事業 암암성사대사업
時至不知無所望 시부지무소망
風風雨雨紛紛雪 풍풍우우분분설
甲乙當運勝敗時 갑을당운승패시
八陰先動失情心 팔음선동실정심
三陽中動還本心 삼양중동환본심
好事多魔同僚輩 호사다마동료배
遲速爭鬪是非 지속쟁투시비
速人謀事非女子 속인모사비여자
遲人謀事非男子 지인모사비남자
彼此之間聖事業 피차지간성사업
遲速關係各意思 지속관계각의사
遲謀者生百祖十孫 지모사생백조십손
速謀者生百祖一孫 속모사생백조일손
遲謀事業鷄龍閣 지모사업계룡각
速謀事業伽山屋 속모사업순산옥

여지운(女子運=好運)을 당하여 세상에 나오는 모모인(謀謀人)이 있으니 천지도수에 따라 선사업(善事業) 즉 중생을 죽음

않고 도를 닦아 나갈 때 일을 행함에 누리지만 꾸준히 나아가자는 사람과 이때를 놓치지 말고 서둘러서 빨리 나아가자고 하면서 양측이 갈림에 따라 많은 사람의 생사(生死)가 갈리는 문제가 나타나니라. 그 삶과 죽음이 갈라지는 시기를 모를 때에 서둘러서 빨리 나아가자는 자들은 욕속부달(欲速不達) 즉 서두르면 도리어 목적을 달성하지 못하게 되니 좋은 운을 만나지 못하리라. 소걸음처럼 느리지만 차근차근 꾸준히 쉽 없이 나아간다면 좋은 운을 만나게 되리라. 좋은 운(好運호운)을 만나게 되면 많은 사람이 화평함을 얻고 좋지 않은 운(男子運=非女子運=非好運)을 만나게 되면 적은 수의 사람만 화평하리라.*

박명하 / 고서연구가


myunghpark23@naver.com

010-3912-5953

당신을 영생의 세계로 안내하는 신문

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다
전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다

승리신문	1990.3.3 등록번호 다 - 0029
발행인 겸 편집인 김중만	
본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람됨이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.	
경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37 우 14679	광고 및 구독신청 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202
홈페이지 www.victor.or.kr	
본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다.	